

平成27年度学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

| 学校目標 | 取組の内容 | | 校内評価 | | 学校関係者評価 | 学校評価 |
|---|---|--|--|--|---|--|
| | 具体的な手立て | 評価の観点 | 達成状況 | 課題・改善方策等 | | |
| 教育課程 生徒の多様な進路希望に対し、生徒にわかりやすい総合学科としてのカリキュラム編成を再検討し実現を図る。 | 履修科目指導、進路説明会など、生徒の進路実現に向けたガイダンスを実施するとともに、「産業社会と人間」などを通しキャリア意識の具現化を図る。特色ある科目を中心に「いのちの尊重に関する教育」をより充実させる。総合学科としての特性と本校の特色を活かしたカリキュラム編成の再構築を図る。外部教育機関と連携し幅広い学習機会を提供することにより、学習内容の深化・充実を図る。 | の取組を通し、生徒の進路意識を高め、希望に応じた科目選択ができてきているか。特色ある科目を中心に生徒に意識付けることができたか。カリキュラムの再構築ができたか。外部機関との連携を拡大できたか。 | 履修科目指導、継続したガイダンスを実施し、生徒の職業意識を醸成し科目選択に生かすことができた。「いのちの尊重に関する教育」は理解を深め、研究内容は来賓から評価された。履修パターンの検討を行ったが、高校改革のため再構築にはいっていない。生活福祉系列で連携を行った。 | 1年次の生徒に進路未定のもが多く、意識改革が必要。科目選択後に進路希望が変更となった場合の対応。実践の中では、生徒の中に他者と触れ合うことを苦手とする者もいて、実践には工夫を必要とする。本校の特色を維持する方策を見出す必要がある。個人的なつながりによる連携が多く、継続に問題点が残る。 | (保護者) ・わかりやすい科目選択ができるようにしてもらいたい。 (学校評議員) ・キャリア教育の充実につながる教育課程と実際の指導は大いに評価できる。 ・主に定時制が取り組んでいる「西部総合職業技術校」との連携はうらやましい。全日制でもこのような体験ができる機会を増やして欲しい。 (その他) | (学校評価) ・丁寧に指導を行い、進路の意識を持たせながら特色ある科目選択をさせることができたが、進路未定や変更に対する対応に問題があった。 ・「いのちの尊重に関する教育」はこれまでの取り組み・成果をまとめ、次につながる研究ができた。 (改善方策等) ・総合学科の教育改革に合わせ、年次進行型を取りながら本校の特徴を活かし、多様な進路希望に応えられるカリキュラムの研究・開発を行う。 ・「いのちの尊重に関する教育」は継続、発展の可能性を探る。 |
| 生徒指導・支援 生徒の規範意識の確立を図り、豊かな心の育成に向けた取組みを充実させる。 | 集会やLHRでの生活指導を通し、生徒の規範意識の向上と社会性の醸成を図る。教育相談コーディネーターを中心としてケース会議等を定期的に開催するなど教育相談支援体制を充実し職員の共通理解を深めるとともに、スクールカウンセラーや外部関係機関、専門機関との連携を図る。様々な機会を通じて、生徒・保護者からの相談に対応する。 | ～の取組みにより生徒が整然と集中して授業に取り組む、充実した学校生活を送れているか。 | 特別指導件数は減少したが、反社会的行為もあり、規範意識の向上は道半ばである。教育相談コーディネーター・スクールカウンセラー・担当者・担任・保護者・管理職等と情報の共有を図ることができた。スクールカウンセラー・担任を中心として管理職や担当者を含め、保護者からの相談に応じた。 | 学校側のきめ細かい指導の継続と保護者の指導に対するより一層の理解・協力が必要となる。専門機関や外部関係機関との連携は難しい問題もあるが、積極的に取組みたい。教育相談コーディネーターを中心にスクールカウンセラーの活用を進め、各種機会にソーシャルワーカーの利用などを含めた相談体制を構築する。 | (保護者) (学校評議員) ・きめ細かい指導が素晴らしい。大変と思うが、ぜひ継続をして欲しい。 ・学校の指導がよく、生徒がみな挨拶をきちんとできるのは素晴らしい。服装も安心できる。ただし、教員による服装の基準のばらつきはなくして統一した基準による指導がよいと思う。 ・高校生世代に対する心身には、両方のケア、特にメンタルヘルスサポートの大切さを感じた。 (その他) | (学校評価) ・きめの細かい生徒指導を行うことができ、特別指導の件数が昨年より減少したことは評価できる。 ・教育相談を利用する生徒・保護者は依然として多く、スクールカウンセラーの有効利用は行えたが、外部機関との連携等に課題が残る。 (改善方策等) ・学校の指導方針に対して、保護者の理解を得るための説明等が今後さらに必要になる。 ・教育相談コーディネーターを中心とした内部・外部の連携をさらに進め、SSWや養護学校等の連携・利用を研究する。 |

| | | | | | | |
|--|--|--|---|--|--|---|
| <p>学習指導・授業改善</p> <p>(1) 基礎的学力の定着と発展的学力の伸長を図る。</p> <p>(2) 授業改善による生徒主体の授業を推進する。</p> | <p>(1) 確かな学力の育成に向け、各教科で身に付けさせたい力について共通理解を図り、教科としての授業改善や補講、講座の充実を推進する。基本的な知識及び技能の習得のため、共通テストの導入と習熟度別学習のより効果的な展開を推進する。</p> <p>(2) 研究授業などを通しアクティブラーニングなど授業展開の新たな取組を行う。グループ学習や発表型授業など生徒が主体となる授業を推進し、プレゼンテーション能力を高める。</p> | <p>(1)教科として組織的な授業改善ができたか。</p> <p>(2)生徒が主体的に授業に取組み、積極的に発表しているか。(生徒による授業評価等)</p> | <p>国語では漢字や語彙の学習、数学では基礎・基本的な学力等の定着を図り、また英語科では小テストの反復等で確かな学力を育成する授業改善を図った。</p> <p>数学・コミュニケーション英語で習熟度授業を実施し、成果を上げた。国語科でも一部共通化を図った。</p> <p>ワークシートの工夫やICTの活用により生徒が主体的に取組む授業を展開した。全教科でアクティブラーニングに取組んだ。</p> <p>各教科で発表等の機会やグループワーク等の機会を取り入れ、プレゼン能力を高めることができた。</p> | <p>確かな学力を育成するには、基礎的な反復学習を今後も継続していく必要がある。また、講座の充実には物理的・人的な障害が多い現状がある。</p> <p>3年間の学習内容を見通して問題の共通化を図りたい。更なる問題の内容の向上を図る。習熟度以外の方法も検討したい。</p> <p>生徒の興味・関心と呼び起こすことができたが、自ら課題を見つけて内容を深めるまでには至っていない。学習内容にどのような活動が有効なのかを検討する必要がある。</p> <p>話し合うことや触れ合うことが苦手な生徒が少なからずおり、授業の工夫とともに課題となっている。</p> | <p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の関心・意欲が高まる授業をしてもらいたい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の工夫・指導に力を入れていることが窺える。国の教育改革の速度が早まっている現在、情報を早めにキャッチし、更なる改善に取り組む必要があると思われる。 生徒たちの学習意欲向上のために、学び合いの学習・アクティブラーニング・ICTを取り入れた学習等を行っているが、それ以前に、生徒の学習の目的・将来への志を育てていくことが重要。また、そのためには、教師側も志を高く持つことが大切だと考える。 <p>(その他)</p> | <p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科で基礎学力を重視し、何を学ばせるかについて共通の理解の下に取り組みを行ったことは評価できる。 ICTの利活用やアクティブラーニングなど生徒が主体的に学ぶ機会を授業の中に組み込み、生徒の関心や意欲を引き出し、主体的な取り組みをサポートできた。 (改善方策等) 教科・科目間での「身につけさせたい確かな学力」について共通した認識を持ち、教材・テストの共通化や授業展開方法の共有化をさらに図る。 将来の基礎学力テストの導入に向け、生徒の現状を把握し、どのような施策が有効かを検討する機会を設けて、学校としての具体案を作成していく。 本校の生徒が主体的、積極的な姿勢で学習活動に取り組むためにどのような方法が有効化をさらに研究し、コミュニケーション能力やリーダーシップを伸長させる。 |
| <p>キャリア教育</p> <p>(1) 生徒の進路実現に向け体系的なキャリア教育を実施する。</p> <p>(2) 授業や部活動を通じてリーダーの育成と社会性の向上を図る。</p> | <p>(1) キャリア教育実践プログラムの検証を行い、改善に向け検討を行う。インターンシップ等への積極的な参加とシチズンシップ教育を推進する。「秦総大学進学支援プロジェクト」を展開し大学受験者への支援を行う。進学・就職の情報共有に向け「秦総ライブラリー」の創設を図る。</p> <p>(2) 授業での積極的な発言・発表、行事への参加促進を図り、リーダーの育成と社会性の向上を推進する。</p> | <p>(1) ~ の取組みを通し、生徒が満足感を得ることができたか。</p> <p>(2) 生徒が積極的に授業や部活動、行事に取組んだか。(生徒による授業評価、担当者評価)</p> | <p>年間を通して、実践プログラムの各分野で生徒の実態に即した検討を行った。インターンシップの参加状況は昨年度を上回った。</p> <p>プロジェクトの実施のみでなくあらゆる場面で進路実現に向けた支援を行った。サポートティーチャーの力もあり、情報の収集・整理を行い、有効活用の実践を図ることができた。</p> <p>(2) 美術の授業では、生徒の作品を全て文化祭等で展示し、外部での展示等にも積極的に参加するなど、発表の場を多く設け、美術に対する関心を高めた。</p> | <p>キャリア教育全体として大きな変更は考えていないが、具体的な取組については今後も改善を心がけていく。</p> <p>インターンシップについては保護者への周知も行い、さらに積極的な体験学習への参加を促す。</p> <p>プロジェクトでは今後も有効的支援の方法を探っていく。</p> <p>秦総ライブラリーの更なる有効活用方法を検討する。</p> <p>(2) 発表を目標として、作品制作への取り組みをいかに活性化するか検討していきたい。</p> | <p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 多種多様な経験を積めるところが総合学科のよいところだと思うので、これからもいろいろなプログラムを充実させてもらいたい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 充実した取り組みをされている。更なる継続・発展を期待する。また、「秦総ライブラリー」の具体的な内容をもっとわかりやすくしてもらえるとよいと思う。 <p>(その他)</p> | <p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育は計画をほぼ遂行し、各年次における有効な取組が行えた。特に3年次は生徒自らの進路希望実現に向けた努力を促し、高い比率で希望をかなえることができた。 キャリア実践プログラムには生徒の実態に合わないものや、職業体験のように参加数が少ないものもあり、あり方は再考を要する。秦総ライブラリーはさらに充実させて欲しい。 授業における発表や行事への参加などをさらに拡充させ、生徒には更なるリーダーシップの育成を図る必要がある。 (改善方策等) 3年間を見越したキャリア実践プログラムを再構築する。 キャリア実践に必要な学力やリーダーシップ、社会性の育成のために実践できる取組を進める。 |

| | | | | | | |
|--|--|---|--|---|---|--|
| <p>地域連携</p> <p>(1) ボランティア活動、あいさつ運動を核とした地域との連携を深める。</p> <p>(2) 防災教育の充実を図る。</p> | <p>(1) ボランティアバンクを活用し、様々なボランティア活動を行うことにより、地域との連携と生徒のコミュニケーション能力の育成を推進する。地域協議会等との連携によるあいさつ運動や交通安全運動などの活動を通し、生徒の自己有用感を高めるとともに、近隣の幼小中学校などと様々な場面で連携を深める。</p> <p>(2) 集会やLHRで防災教育を恒常的に実施し、防災意識の向上を図る。地域と連携し、地域での防災活動への参加を推進する。</p> | <p>(1)生徒が積極的にボランティアに参加するとともに、地域連携への意識の向上が図られたか。</p> <p>(2)生徒に防災意識が醸成されたか。</p> | <p>部活動のボランティアへの参加は例年並みの参加があったが、その他の一般生徒の募集による数字は昨年同時期比で見るとやや減少傾向である。あいさつ運動は生徒会役員にも参加してもらい、運動部員以外の視点でもあいさつ運動を通した連携ができた。</p> <p>年間4回の防災訓練を行うことにより、生徒の防災意識に変化が見られた。防災対策として非常用飲料水・食料の三日分の備蓄を段階的に進めた。</p> | <p>部活動のボランティアにおいては、地域の特に中学校との連携をさらに深めるべく、積極的な活動参加を促したい。</p> <p>あいさつ運動では、さらに文化部の生徒にも参加させるなど、運動部以外の生徒にも連携意識を持たせる機会を設けたい。</p> <p>授業時間確保の観点から、防災教育の時間をどのように確保していくかが今後の課題である。</p> <p>防災用品の保管場所の確保が課題となっている。また、地域との連携を模索する。</p> | <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域とのボランティア活動は大変盛んで、地元・地域も大変頼もしく感じているところだと思います。 ・今後も積極的なボランティア活動への参加を期待しています。 ・ボランティア参加の教育効果は高い。参加者の減少傾向に歯止めをかけ、充実した取り組みなるように期待する。 ・清掃活動やあいさつ運動などのボランティア活動を積極的にやっていただき感謝します。中学生も高校生姿を見て刺激を受けています。今後可能であれば高校生の活動に中学生も一緒に参加させたい。 ・防災用備蓄は3日分は確保してもらいたい。 | <p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動のボランティアは、例年通りよい取組ができた。地域連携の意識も強まり、質の高いボランティアができています。ただし部活動以外の生徒については消極的であった。 ・あいさつ運動など地元幼小中学校との連携は生徒会役員や文化部生徒の参加もあり、評価できる。 ・DIG訓練等も取り入れ、生徒・職員に防災への意識を持たせることができた。 (改善方策等) ・一般生徒のボランティアへの関心、意欲を高め、参加率が高くなるようにする。地域のニーズにさらに応えられるように意見交換を行う。 ・防災の備えをさらにすすめる。また、地域での役割を意識した防災拠点作りを進める。 |
| <p>学校運営・管理</p> <p>(1) 安全管理・危機管理等を踏まえた連携体制を整備する。</p> <p>(2) 年齢層の違いを踏まえた教職員の連携を通し、人材育成及び事故防止を図る</p> | <p>(1) 全職員で現状認識と情報の共有化を図り、積極的に学校運営に参画する当事者意識の向上を図る。円滑な業務遂行のため、業務引継書作成を行い、課題を検証し改善を図る。若手教職員への学校独自の研修を行い、意識を高める。サービスや個人情報の管理、部活動等における事故不祥事防止の研修会を通し、事故不祥事防止の徹底を図る。業務遂行等の検証を行い、業務の効率化、事故防止を踏まえたグループ再編を検討する。</p> <p>(2) 業務遂行において、主担当だけでなく副担当が積極的に関わることにより若手教員とベテラン教員の業務協力を推進することにより、人材育成を図る。グループ、年次、教科といった網目状の連携を通し、細かな疑問もそのままにせず学校運営の改善を図る。</p> | <p>(1)職員の意識向上と前向きな姿勢を引き出すことができたか。(教職員アンケート)</p> <p>(2)教員の相互理解と協力体制がより深まったか。(教職員アンケート)</p> | <p>学校改革に向け職員全体の意識を高め、学校運営への当事者意識を高めた。</p> <p>各グループで業務引継ぎを円滑に行うとともに、PDCAサイクルを実施した。</p> <p>若手教職員向けの事故防止研修会を実施し、参加者からもおおむね好評であった。</p> <p>事故防止会議を12回実施し、事故、不祥事を防止の意識を徹底した。</p> <p>業務改善について各グループ間の業務分担の適正化を図った。サブリーダーの配置によって次期のリーダー育成を図り、若手を中心とした人材育成を行った。</p> <p>各年次・グループ間・教科間の情報の共有化を図った。</p> | <p>学校全体で県立高校改革を行う意識をさらに高める必要がある。</p> <p>業務におけるPDCAサイクルの利用をさらに進め、業務改善を行う。</p> <p>来年度はさらに若手職員が増えるので、研修に工夫を凝らし、さらに意味のあるものにしていく。</p> <p>事故防止会議以外にも不祥事防止の取組を充実させていく。</p> <p>グループの再編は高校改革と同時に取組む必要があり、意見を集約しながら取組む。サブリーダー制をさらに進め、若手職員が業務の中心となれる人材育成を進める。</p> <p>グループウェア等の利用により、さらに情報の共有化を進め、学校運営の効率化を図る必要がある。</p> | <p>(保護者)</p> <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しっかりと取り組まれており、問題は感じられない。(大越様) ・グループの再編計画には具体的なビジョンを持って取り組んでもらいたい。 <p>(その他)</p> | <p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修等を通して若手職員の意識作りができた。結果、学校運営に若手が積極的に関わり風通しのよい職場づくりができた。 ・各業務で引継ぎが行われ、PDCAサイクルによって改善が見られた。 ・業務分担やグループ組織等の改善はあまり進まなかった。 ・不祥事防止の研修会を定期的に行い、職員の事故防止への意識を高めることができた。 (改善方策等) ・学校教育計画の改革と同時にグループ業務等の再編も視野に入れながら協議を続け、引き続き学校運営の改革を目指す。 ・情報の共有化を図るため、ネットワークにおけるグループウェアの利用などを研究し、職員の誰もが必要な情報を利用できる環境づくりを進める。 ・グループの再編とともにサブリーダー制をさらに進め、次世代のリーダーの育成を図る。 |